総評　Assembly EAST 乙 16 番テーブル

文責：立教大学　北田

Judge
北田（立教 4)、山田（芝工 4）

Table member
飯田(明治 3)、小北（法市 2)、上見（慶應 2)、浅井（青学 2)、
手代木（明学 2)、東郷（早稲田 2)、中野（高経 2）

議論の流れ

上見、手代木、小北が OP に立候補した。いずれも臓器移植のモデルオピニオンシートであったため各人の差異はコンパリソンのアイデアのみであった。投票の結果手代木と小北で決選投票になったが、最終的に手代木が OP となる。ASQ ではあまり Q が出ず、20 分弱で NFC へ突入する。東郷がアーギュメントを提示したが手代木の S と小北の C により、AD の立証後に再度意見を確認することとなる。PLAN サイドではアーギュメントが出ず、開始から 1 時間 40 分で AD の立証を終える。東郷の話が再び始まるかに思えたが、DA として提示するということで Gathering DA が始まる。小北、上見、東郷が候補者となったが、上見のアイデアが選ばれる。TG は脳死者の家族で、権利（self determination）を奪われる事に対する苦痛を持つ人であった。DA Linkage において小北が臓器移植の前後で m/s のニュアンスが変わってくるからどちらかに焦点を当てるべきではないかという doubt を提示する。同様の doubt を持っていた手代木のサポート C もあり、上見が臓器移植前の m/s に絞ることとなり、DA の立証を終える。コンパリソンでは手代木が m/s の term で AD に優位を置いたアイデアを提示する。それに対し上見が反論を提示し 1 時間 20 分議論したが、結論を得ることはなく幕引きとなる。

主な論点

① 東郷の NFC アーギュメント

「現状の臓器移植のシステムは臓器を欲する患者と脳死者（ドナー候補）の双方に対して公平性が担保されている。この現状を変えることは公平性を崩すこととなり、m/s/w を引き起こす。」といった内容だ。手代木は患者側が不利になるという事を確認した後、「その不公平性は俺のマンデートによって起こることだから NFC ではない、PLAN サイドでこの話をしよう」とすぐに S を打つ。しかし NFC に対してダイレクトなアーギュだと東郷は主張し、対立する。ここで小北が m/s/w の立証方法を確認すると sit コンであることが分かっ

た。そこで再び手代木が「とにかくいずれにせよ AD 立証の後だよね？？」と念を押し、東郷はやや納得がいっていない様子であったものの後で話す事を承諾した。

② 手代木の QL コンパリソン

DA TG の term は家族が脳死になってから臓器移植で利用されるまで（APA において）であったため、その期間は最大でも脳死者の平均寿命にほぼ等しいという仮説のもと、AD＝約 2〜3 年、DA＝数日というエビデンスを用いたそれぞれの平均寿命によるコンパリアイデアを提示した。

これに対し上見が提示した反論は 2 つ。

a. AD TG の term の測り方に対する doubt。内容は「AD というのは SQ と APA の gap であるため term として抽出すべきは SQ から伸びた分だ。」といったものだ。これを受けて手代木が gap におけるおおよその最大値と最小値を推定し、平均値を測りなおして提示した（数値としてはほぼ変わっていない）。

b. Term の計算方法に対する doubt。「最大値と最小値を用いることは良いが、それぞれの発生確率は異なるかもしれない。そこまで考慮しない限りそのロジックを認めることはできない。」という内容だ。この検証中に時間切れとなった。

コメント

大きな停滞もなく、コンパリに 1 時間以上時間を費やす事ができたのは非常に良かった。しかし議論をする者としての真摯さにやや欠ける人が散見され、またそれを正そうとする人もいなかった事が残念であった。例えば OP 決めの時間、最初に Q を受け付けた OP 候補の上見に対しては時間制限（３分？）に基づき Q を打ち切ったにも関わらず、後の小北と手代木の際には時間制限がなく明らかに長い時間をそれぞれに費やしていた。また NFC をはじめとして、相手の話を聞かずただひたすら自身の意見をごり押しするような場面も見られた。今回のテーブルで誰かが自身の非を認める時の多くは説得に納得したわけでなく、ただ相手の態度に辟易して半ば投げ出すような形であることが多かったように見えた。もちろんそれらが意図的なものであったとは思わないが、自分なりに考えて意見を発信できる人が多かっただけに、今後はそういった事にも頭を回してみてほしい。これはマナーとしてだけではなく、戦略的にも周囲との信頼関係やオーソリティを築く上で必ず役立つはずだ。しかし総じて 2 年生ばかりのテーブルとは思えないほどの出来栄えだった。チャートや話し方などのアプローチを工夫するだけで、急激に伸びそうな人ばかりであった。今後に期待しています。お疲れさまでした！

順位選定理由

文責：山田

こんにちは。芝工(4)まさとです。アッセンブリーお疲れ様でした。ジャッチ中に笑いすぎてしまいごめんなさい笑。では、僕の方からはA順位の選定理由とB今後の課題について述べさせていただきますね。

1位　手代木（明学2年）

A: 圧倒的介入量のもと確かな推進力と正確なカンファメーションでテーブルを進めた。手代木の特筆すべき事項は周囲の混乱をいち早く察して発言に移せる介入速度である。特に DA エリアで、小北の疑問に察して発言したカンファメーションは分かりやすく的確なものであった。オピメとしてコアがぶれることなく、推進力を持ってコンパリゾンまで進めたことやアイデアを評価して乙一とする。また、私がジョイントで彼を初めて見たときと比べ、別人のようにプレゼンテーションが上達したことも記しておく。

B: 前述のように手代木が乙一以上の実力を持っていることに疑いはないが、アサンプションが強すぎる感を否めない。つまり、NFC のハンドリングもコンパリの反駁も素早く行えているが、ミスアンをした場合、発言力が下がってしまう。そのため今後の課題としては QC を丁寧に行った後に S(後で話そうやダウト)を提示すると良いだろう。また、私は手代木の態度に多少疑問を感じた。これは焦りによるものか他人の発言を遮る行為が見られた。介入速度が速い反面、他人の意見を聞いていない様に見られるため、今後は間をおいて、落ち着いて取り組んでほしい。　とは言ったものの、ダントツで1位だったので今後も自信をもって、MESA を牽引する存在になって欲しい。

ちなみに2位以降は大差がないので介入量次第で順位を変えられたことを留意すること。

2位　小北（法市2年）

A: 介入量は 1 位に及ばなかったものの、解釈のズレを防ぐカンファメーションと的を射たダウトを私は高く評価したい。特に SQ で death の定義のカンファメや DA の term のダウトは本テーブルに欠かせない発言であったと考えている。よって、議事進行面を考慮して 2 位となった。私は小北もたびたびジョイントで見ているが、発言が鋭くなっており、プレゼンにおける CCF も完全にできるようになったことも記しておく。

B: 最初から DA 決めまで終始介入量を保っていたものの、コンパリゾンから介入量が極端に少なくなってしまった。そのため、今後の課題は議論のコンテンツ性向上だろう。つまり、コンパリでは得意のカンファメだけでなく、反論して相手の意見を覆す批判的思考能力を身に着けてほしい。小北だけに言えることではないが、1 時間以上コンパリに時間を割いたが、本テーブルでは、コンパリにおいて手代木と上見の反駁だけであった。そのため、多少なりともコンパリで反論や反駁する癖を身に着けて、議論を深めることを課題として取り組んでほしい。また、本テーブルでは議論を収束させた発言をしたのが全て手代木であったため、一人で議論を収束させる力も必要である。しかし、乙二だが、高いレベルであることは明らかなので、今後の活躍に期待したい。

同率 3 位　**東郷（早稲田 2 年）**

A; 介入量は少なかったものの、NFC における反論を提示し、内容面の深度に貢献したことや中学生でも分かるような丁寧なプレゼンテーションを評価し、同率 3 位とした。つまり、NFC において equality という言葉で生死の議論を深めた点や全ての発言場面でアトモス良く発音の良いプレゼンは浸透率 100%であった点を考慮した。まるで元 WESA チーフの現ジャッチ基準長のプレゼンであった。

B: プレゼンテーションに秀でているが、介入量が少ないことを懸念される。つまり、本テーブルにおいて、DA やコンパリで議論が停滞したときに介入すれば順位を変えられる立場にあった。今後の課題は他人の話に介入できるかである。非常に高いポテンシャルを秘めているので、どんな些細なことでも介入する癖を身に着けて欲しい。また、東郷のアーギュは医療論題の核心を突くものであったことも記しておく。私は医療論題において生死の議論が最重要論点であると考えている。なぜなら、m/s/b に直結するからである。この m/s/b への繋がりを各自考えて欲しい。本テーブルにおいても、オピメ決めの際コンパリアイデアをたくさん見られたので感銘を受けた。また、東郷のアーギュを sit コンにしたが、周りのサポートを受けてから示されたため、自分から周りに要求(絶対私が DA プレゼンターなども)することも必要である。と言えど、Q や C も鋭く、良い視点で介入できているため、この調子でディスカッションを続けて欲しい。

同率 3 位　**上見（慶應 2 年）**

A: 上見は本テーブルの中でも特に批判的思考力を持ってコンパリゾンに臨むことが出来ていた。つまり、前提を疑わずに根拠不十分なまま議論が進行していくことを防いだ点で、上見の働きは高く評価できるものであった。DA プレゼンターになれた一方でコン

パリゾン以外のエリアではほとんど介入していなかったので同率 3 位となった。上見の反論や反駁速度は光るものがあり、私としては十分に納得がいく反駁であった。

B: 上見による反論や反駁は手代木の協力もあり大きくなったものの、おそらく覆したかったであろうこの議論全体に大きな影響を及ぼすことができなかった。さらに、上見による反論はコンパリのセオリー感によるものだった。そのため、コンパリのセオリー感での対立で相手を納得させれば、結果は少なからず違っていたかもしれない。例を挙げると QL コンパリで 1 つのロジックだけを立論できるのかそれとも複数のロジックを立論できるのかは人によって考えが異なる（最近は後者が多いが）こういったときに相手を納得させた方が有利に進められる。なぜなら、コンパリにルールがないからだ。今後の課題はルールがないコンパリだからこそ、相手を納得させるプレゼンをすることだろう。もちろん納得させられるかどうかは外的要因(オーソリなど)も絡んでくるが、上見には内容面で考えてみて欲しい。私は去年のアッセンで失敗してしまったが、2 年生で思考力が抜群に優れる君なら可能であろう。またコンパリ以外でも批判的思考力を活かす必要がある。具体的には NFC のダウトからのハンドリングや SQ におけるダウトなどに活かせるのではないか？これから躍進する慶應で切磋琢磨し、輝き続けて欲しい。来年に期待大。

5 位　**浅井（青学 2 年）**

A: 浅井は SQ で other way についての質問とコンパリで手代木と上見におけるスタンスについてのカンファメーションが評価された。片手で数えるだけの介入量になってしまったが、後の議論に繋がるような発言であったことを評価して 5 位とする。つまり、Q や C で終わるのではなくアーギュや S に繋げられる発言を本テーブルでして欲しかったことを記しておきたい。

B: 浅井の other way における質問はアーギュにしたかったのだろうと考えている。本テーブルではオピメの手代木が TG は other way を使えないし、理由を考慮しないと答えたため、話が収束したが、もっと粘っても良かったであろう。さらに、最後の手代木と上見におけるスタンスについてのカンファメを voting でコンパリのセオリー決めようなどの S に繋げて、結論を得ても面白かったと思う。今後の課題は Q や C をアーギュや S に繋げることであろう。さらに、介入量を増やすことも必要だろう。誰でも質問できるマスト Q から介入すれば最速で介入できるのでぜひ、挑戦して欲しい(私もこんな感じで介入したら 2 年前のアッセンで 50 個以上 Q してました（笑）)

6 位　**飯田（明治 3 年）**

A:　最後の 1 つの質問を評価して 6 位とする。

B:　発言は 1 回だけであったが、最後にあきらめない姿勢を見せてくれたことを評価したい。今までの dis でたくさん苦労してきたことがありますよね(特に俺はね笑)こういった経験は間違いなく、今後の人生に活かせると思いますよ(特に俺はね笑)就活だったり、研究だったり、苦労続きで嫌になることも今後の人生であると思うけど、dis に比べたらマシかってなるよ(特に俺はね笑)
今後は後輩指導に精を尽くしてください。お疲れ様でした。

7 位　**中野（高経 3 年）**

A:　介入がなかったので 7 位とする。

B:　発言はなかったが、このアッセンの会場に来たことを評価したい。(特に俺はね笑)
3 年で忙しくて、dis できなくて、プレパ環境良くないからアッセン行かないって人が私の現役の時もいました。周りが dis を辞めていく中、アッセンに出て楽しいのって不安も感じていました。(特に俺はね笑) でも、今は dis 続けていて良かったと思います。なぜなら、多くの人と話し、知見を広げられ、dis 界特有の温かい雰囲気があるからです。例えば、アッセンのクロージングセレモニーとかさ（特に俺はね笑）こういう機会は人生で少ないと思うからまだ dis を続けて欲しいです。お疲れ様でした。

以上が順位の選定理由になりますー。全体的に 2 年生が多く、僕が知っている人が上位として活躍していたので見ていて本当に楽しかったで〜す。
~~選定理由もやさしすぎるから僕はダメなんだろうね（笑）~~
役割としてはオピメとして議論の土台を作り、テーブルを引っ張るじゅん君
カンファメやダウトでごちゃりを解消するゆりかちゃん
疑問点からアーギュを出すさきちゃん
コンパリで、計算方法を批判するたいせい君（笑）
時折介入する他のメンバーって感じかなーーー
みんな役割あっていいけど、全部できると〃〃very good〃〃

Dis 界で僕のことを知ってる人はぜひ次ページのご閲覧の方をよろしくお願い致します。

感謝。

皆さん、アッセンブリーお疲れ様でした。

ランクを取れた人、ランクを取れなかった人、それぞれ違った立場があると思います。

私的なことですが、私は後者でした。

私は去年のアッセンで負けてしまい、いろんなことを考えました。当たり前なことですが、やっぱり自分にとってディスカッションというのはとてつもなく大きなウェイトを占めていたものだったみたいです。

その日は朝 4 時まで眠れませんでした。

この 2 年間、ランカーになるためにいろいろ頑張ってきたんだなって。
そこに入れない、行けないって決まった時のあの喪失感は一生忘れられないと思います。

なので怒られてしまうかもしれませんが、本当に学校も友人もディスカッションもサッカーもどうでもよくなりました、芝工 ESS も何もかも。

ただ、どんなに最高な日でも、どんなに最悪な日でも、必ず次の朝は来るわけで。

家族と話したり、友人と話したり、恋人と話したり、日常に触れていきながら少しずつこの事実を消化していけたのかなと今は思っています。

たくさんの方が、こんな俺のことを話題にしてくれたことを周りから聞きました。
バカ発言から始まったディスカッション人生、あれから 2 年半が経ち、俺が 4 年になっても気にかけてくれる先輩方。
その期待に応えられなかったことが今でも死ぬほど悔しいです。

でも、久々に dis したら、ランクを取れなかったことをその瞬間だけ忘れてました。
ああ、dis って楽しいなって。dis ってすげーなって。
だから、チャート用紙があれば、チャートペンがあれば、僕は前を向いていけると思っています。
今まで辿ってきた道は間違っていなかったと思うし、今までやってきたことに悔いは一切

ないので。

そして本日、マスターになることになりました。

どんなことで dis 界を引退しても、自分が社会人になるまで後輩を後押しすることがマスターの義務だと思います。

最後に、半年以上 dis 界から離れていたにも関わらず、温かく受け入れてくれた同期方、僕なんかのリフレを真剣に聞いてくれる後輩方、現役の時から丁寧に dis 以外でも指導してくれた先輩方、本当にありがとうございました。

ここまで僕が成長できたのは皆さんのおかげです。

みんなの前では恥ずかしくて言えませんでしたが、

僕は本当に dis 界が大好きです。

長文失礼しました。dis 界のさらなる発展を祈りつつ、筆を擱きます。

芝工(4) まさと